

# ちょっと変わった いのりのかたち

今年は、新型コロナウイルス感染症が流行し、私たちの生活に大きな影響を与えています。科学的な感染予防対策が進んでいる一方で、疫病退散を祈った「アマビエ」グッズが人気のようです。ここでは、埋蔵文化財の中から、さまざまな「いのり」を紹介します。

## 1 人をかたどった岩

川前遺跡(太白区)から出土した縄文時代晩期の岩偶です。岩(石)を削ったもので、下半身が欠けた状態で発見されました。豊作や子孫繁栄、病気やケガから身を守れますようにとの、「いのり」が込められているものと考えられています。



岩偶 川前遺跡

## 2 木簡に書かれた呪文

洞ノ口遺跡(宮城野区)から出土した呪符木簡と呼ばれる、おまじないを書いた木の板です。絵の下に「急々如律令」という悪霊を退散させる呪文が記されています。当時は病気も悪霊のしわざと考えられ、病気回復を「いのり」しました。



呪符木簡 洞ノ口遺跡

## 3 字が刻まれた石の板がいっぱい

東光寺(宮城野区)に残る鎌倉時代の板碑群の一部です。板碑は石に仏を表す文字(梵字)や建てた年などを刻み、死者や自分の冥福を「いのり」ために建てられました。東光寺やその周辺には大小さまざまな



東光寺西平場の板碑群 東光寺遺跡

板碑があり、発掘ではたくさんの墓地が検出されています。東光寺周辺は、松島とらぶ中世の霊場、いわば「いのり」の場でした。

## 4 文字が書かれた石

東昌寺(青葉区)の北側で出土した石には、お経の一字や仙台藩2代藩主伊達忠宗の法名(死者につける名前)などが書かれています。東昌寺では、万治元(1658)年に死去した忠宗の中陰法事(四十九日)が行われており、忠宗の冥福を「いのり」、法要で用いられたものと考えられます。



伊達忠宗の法名などが書かれた石(上)  
お経の一字が記された一字一石経(下)  
仙台市博物館 所蔵



# ようこそ まいぶんの 世界へ

埋蔵文化財

仙台の遺跡探検

## 旧石器時代

### 2万年前のある日のたき火跡

写真の白い線で囲まれた部分は昔の人が火をたいた跡で、炭化した燃えカスが残っている状態です。

驚くべき点は、この場所で火がたかれたのが約2万年前の旧石器時代ということです。

富沢遺跡(太白区)で検出されたこのたき火跡は、長期間火がたかれたものではなく、旧石器時代に誰かがこの場所にやってきて、一時的に野営(キャンプ)をした際の跡と考えられています。

たき火跡の周りでは、石器や石器をつくった時の石のかけらが出土しています。その後の研究の結果から、旧石器時代の人々が石器の修理や、動物の皮あるいは肉を切る(調理?)といった活動をしていたことが分かりました。



たき火跡が見つかった際の様子

### 氷河期の自然環境が分かる!?



発掘調査の様子

富沢遺跡では、通常、残りにくい旧石器時代の樹木の根や、植物の種子・花粉なども多量に出土しており、氷河期であった当時の自然環境を知ることができます。

分析の結果、寒冷な気候下で見られる針葉樹の湿地林があったことが分かっています。

自然環境が分かる樹木跡等と、一時的に野営をした箇所が同時に検出された例は「世界中でここだけ」です。

#### 【富沢遺跡】(太白区長町南)

小学校の建設予定地として発掘調査が行われた範囲で旧石器時代の湿地林跡と野営跡が発見されたことから、建設予定を変更し、富沢遺跡保存館(地底の森ミュージアム)として、遺跡の保存・活用を行っています。

## 縄文時代

### 十人十色!個性的な土偶がザックザク!

大野田遺跡(太白区)からは、顔がハート形をした「ハート形土偶」が多く出土しました。その中には、高さ28.6cmの大型のものも発見されました(右写真)。大野田遺跡で出土した土偶は、中実(中が空洞ではない)で足が短く、自立できるものが多いという特徴があります。また右写真の土偶のように、後頭部に当たる部分が長く伸び、てっぺんに渦巻模様があるという特徴も見られます。結んだ髪の毛、もしくは被り物を表しているのでしょうか。その他にもいろいろな顔の土偶が出土しています(下写真)。



### 一体何のために? 「謎の土器」発見!



大野田遺跡からは謎の土器も多数出土しています。写真①・②の土器は、底の内側に棒状の突起が複数あります。赤く焼けている様子からも、まるで固形燃料を置く台のようです。一方、写真③の土器は、内部に火鍋を連想させるような仕切りがあります。しかし、底まで仕切られているわけではなく、これも用途は謎に包まれています。

#### 【大野田遺跡】(太白区大野田)

平成5年から7年にかけて発掘調査が行われ、縄文時代後期の祭祀跡や、古墳時代から平安時代にかけての集落跡、畑跡が検出されました。大量の土器、石器のほか、土偶や動物形の土製品、耳飾り、ヒスイ製垂飾品、特殊な形の土器等が出土しました。

弥生時代

東北初! 布を織った道具が出土!

中在家南遺跡(若林区)では、東北地方で初めて緯打具という布を織る機織の部材が出土しました。緯糸を通す時に経糸を立ててできた糸擦れのあとが残っています。糸擦れのあとから、粗めの布が織られたと考えられます。仙台平野から出土した弥生土器の底に布のあとがあったことから、弥生時代に布があったことは分かっていたのですが、緯打具が出土したことにより、東北地方にも機織の技術が伝わっていたことが分かりました。



出土した緯打具



緯打具の糸擦れの痕

【中在家南遺跡】(若林区荒井)

土地区画整理事業に伴い調査が行われ、河川跡から弥生時代中期と古墳時代の木製品など大量の遺物が出土しています。出土した遺物は平成15年に仙台市指定文化財になっています。

広大な水田域



沓形遺跡の水田跡(北西から)

中在家南遺跡は地下水が豊富だったため、通常の遺跡では残らない木製品や骨角製品が良好な状態で発見されています。木製品は鍬や鋤、泥除などの農具が多く出土しています。中在家南遺跡の東側の後背湿地にある、沓形遺跡や荒井南遺跡では弥生時代中期の水田跡が検出されています。特に沓形遺跡ではこれまでの調査で面積20haを超える広い範囲で水田をつくっていたことが分かっています。これらの遺跡で検出された水田跡は1区画あたり16~50㎡で、現在の水田跡と比べると小さな区画の水田です。

【沓形遺跡】(若林区荒井東)

弥生時代中期や古墳時代の水田跡が検出されています。特に弥生時代の水田跡は、海の砂に覆われた状態で発見され、津波被害がここまで及んでいたことがうかがわれます。

古墳時代

国内最北の革盾!

春日社古墳(太白区)からは、木製の枠に革を張った盾が出土しました(右写真)。上端幅60cm・下端幅72cm・高さ120cmの台形です。木枠と革は失われていましたが、革の表面に塗られた漆の膜と共に刺しゅうの文様が明瞭に残っており、そのままの状態に保存処理することに成功しました。これほど良い状態で保存処理ができたことは、全国的にも大変珍しいことです。

また同じ場所から、棺を納めた穴が見つかり、鉄矛、鉄の鍬をとりつけた矢の束などの副葬品も出土しました。革盾を含む「春日社古墳出土副葬品」は、平成24年に仙台市指定文化財となりました。

革盾の出土例は、近畿地方に集中しています。当時、近畿地方にあったヤマト政権は、革盾を含む武器・武具などを各地の有力者に配ることで新たな政治的同盟関係を形成していきました。

春日社古墳から出土した革盾も、つくり方や文様などが各地から出土した革盾と非常によく似ており、ヤマト政権からもたらされたものと考えられ、古墳に埋葬されていた人物も、ヤマト政権と深いつながりのあった有力者であると考えられます。革盾の発見は、1500年前にはすでに当時の「中央」と深いつながりのある人物が、ここ仙台に存在していたことを示しているのです。



春日社古墳の革盾が出土した様子

革盾出土古墳の分布

※橋本達也(1999)「盾の系譜」をもとに作成しました。  
●は、都道府県ごとの革盾出土古墳の数を示しています。



【春日社古墳】(太白区大野田)

道路拡幅や土地区画整理事業に伴って調査が行われました。馬形埴輪なども出土しています。

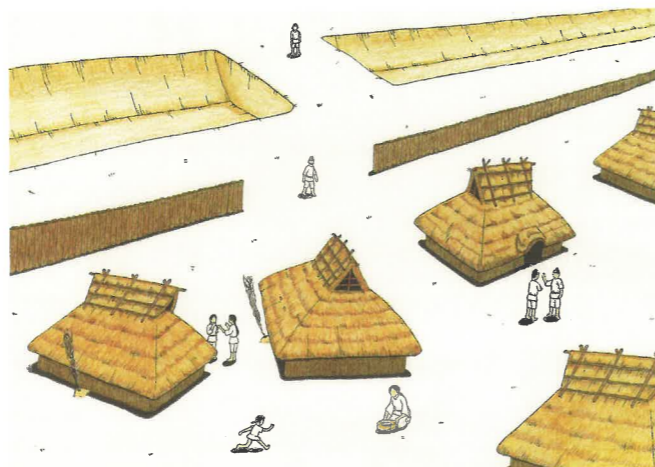
※革盾は、富沢遺跡保存館(地底の森ミュージアム)で保管しています。

飛鳥・奈良時代

東北最大級の集落跡

現在、住宅や商業施設でにぎわいを見せるあすと長町周辺。飛鳥時代から奈良時代、ここには東北地方で最大級の集落がありました。

長町駅東遺跡(太白区)では、北東側にある西台畑遺跡と合わせ、これまでに1000軒以上の竪穴住居跡が検出されています。住居跡の範囲はさらに広がることが予想され、計画性をもってつくられたと考えられる大集落です。ここには、いったいどんな人が住んでいたのでしょうか。

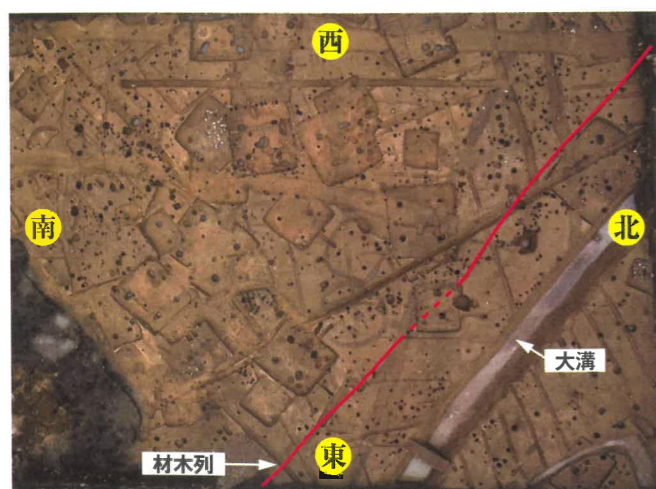


長町駅東遺跡 集落の復元想像図

集落の東側に、郡山遺跡があります。郡山遺跡は、飛鳥時代につくられた、全く記録に残されていなかった役所(官衙)跡です。発掘調査でその存在が明らかになり、国の史跡に指定されています。役所全体の規模が極めて広く、東北地方ではとても珍しい畿内産の土師器が出土していることから、国の出先機関であったと考えられています。ここでは、今で言う役所の職員がたくさん働いており、大集落はこれらの人々のためにつくられたのです。遺跡からは、関東地方で使われた土器も出土しており、関東地方の人とモノの移動があったことがうかがわれます。

8世紀初め頃、多賀城に新たな役所がつくられると、郡山の役所は役目を終えました。それと時をほぼ同じくして、この大集落もなくなってしまいました。それ以降、中世から近世には畑として利用されていたようです。

およそ100年の間に1000軒以上の住居がつくられ、そして消えたこの集落跡は、かつての郡山官衙の隆盛と終焉、その両方を物語る遺跡です。全国的にもこれだけの集落跡の調査は珍しく、発掘調査は今も続いています。



住居跡(四角形に見えるもの)が密集する様子

【長町駅東遺跡】(太白区あすと長町)

飛鳥時代から奈良時代初めの大規模な集落跡で、これまでに約600軒の竪穴住居跡や、集落を区画する大溝跡や材木列跡が検出されています。

平安時代

文字が刻まれた瓦の不思議

右の写真は、陸奥国分寺跡(若林区)で出土した瓦に押印されていた文字です。文字瓦が特に多く出土するのは、全国の寺院跡や役所跡の特徴の一つです。

これらの多くの文字は、人名・役職名・地名などを簡素に記したものと考えられています。なかには人名・地名を詳細に記したものや、氏族などを表した、10文字以上に及ぶ文字瓦も確認されています。



見つかった刻印瓦 (左上から横に、物・伊・占・大・万・末・矢・倉・真)

【陸奥国分寺跡】(若林区木ノ下)

奈良時代に聖武天皇が諸国につくらせた国分寺の一つで、正式名称は「金光明四天王護国寺」と呼ばれています。現在確認できる最北の国分寺跡であり、大正11(1922)年に国の史跡に指定されました。

中世のお墓をのぞいてみると...

中世の埋葬には、土葬や火葬などがあります。王ノ壇遺跡(太白区)では様々な墓が検出されました。写真の墳墓は中央の墓穴に棺を支える石が敷かれた立派なものです。ここでは鎌倉時代の大きな屋敷跡が見つかっており、その母屋近くで発見されたことから、屋敷の主を埋葬したと考えられます。



屋敷の主を埋葬したと考えられる墳墓

【王ノ壇遺跡】(太白区大野田)

縄文時代から中世までの各時代にわたる遺跡です。中世の遺構では、鎌倉時代の武士の屋敷跡や、中世の幹線道路である「奥大道」とみられる道路跡などが検出されています。



## 政宗が築いた二つの城!

江戸時代、仙台藩初代藩主伊達政宗が築いたお城が仙台城の他にもあったことをご存知でしょうか。その名も「若林城」。政宗が晩年を過ごしたお城です。若林城跡(若林区)は、今では宮城刑務所となっています。城を囲む土塁の形状は昔の絵地図と変わらず、江戸時代の様子がかがえます。城内には政宗が朝鮮出兵の際に持ち帰ったと伝えられている臥龍梅があり、国指定の天然記念物となっ

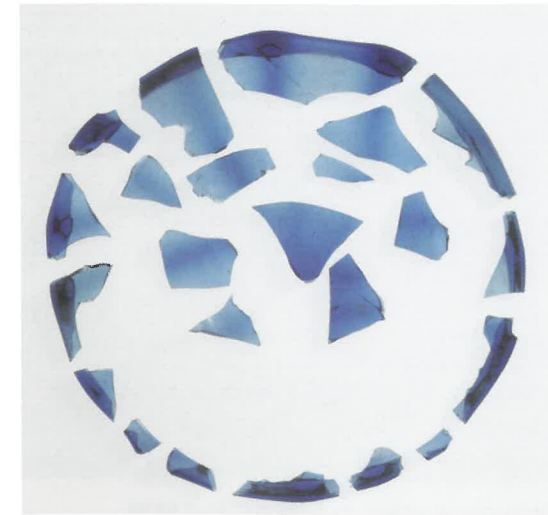


ています。発掘調査も行われており、朝鮮半島由来の「滴水瓦」(上写真)が出土しています。政宗の死後、若林城の建物の一部は、仙台城二の丸(現 東北大学川内キャンパス)に移築されました。

### 【若林城跡】(若林区古城)

十数棟もの建物跡が検出されています。また池跡や六郷堀跡、「御薬園」として使用されていた際の畑の畝の跡なども発見されました。

## 政宗は外交にも力を入れていた!!



### 【仙台城跡】(青葉区川内)

本丸部分では、大広間の礎石跡や雨落ち溝跡などが検出され、その位置や規模などが明らかになりました。今年度も登城路跡や土塁などで発掘調査が行われました。

仙台城跡(青葉区)では、平成9年から16年まで石垣解体工事に伴う発掘調査が行われました。474点ものガラス器の破片が出土しています。なかには青ガラスモール鉢(左写真)や、エナメル彩を施した杯(グラス)があり、17世紀ヨーロッパ産のものと考えられます。この時期の遺構でこれほど多くのガラス片が出土するのは全国的にも非常に珍しいことです。政宗がソテロとビスカイノという外国人との謁見を行っているという記録が残っていることから、外国との交流を持っていたことがうかがえます。

## 今回取り上げた主な遺跡MAP



- ① 富沢遺跡(旧石器時代)
  - ② 大野田遺跡(縄文時代)
  - ③ 川前遺跡(縄文時代)
  - ④ 中在家南遺跡(弥生時代)
  - ⑤ 沓形遺跡(弥生時代)
  - ⑥ 春日社古墳(古墳時代)
  - ⑦ 長町駅東遺跡(飛鳥・奈良時代)
  - ⑧ 陸奥国分寺跡(平安時代)
  - ⑨ 王ノ壇遺跡(中世)
  - ⑩ 洞ノ口遺跡(中世)
  - ⑪ 東光寺遺跡(中世)
  - ⑫ 仙台城跡(近世)
  - ⑬ 若林城跡(近世)
- ※ ( )内は今回取り上げたトピックに関わる時代

## 主なできごと

時代区分	年代	日本の主なできごと	仙台周辺の主なできごと	
原始	旧石器	約30000年前 約20000年前	市内で人が活動し始めた可能性がある(上ノ原山遺跡) 石器製作跡(山田上ノ台遺跡)、キャンプ跡(富沢遺跡)が残される	
	縄文	草創期	約13000年前	石器の製作・使用が始まる
		前期		土器の文様として縄文が定着する
後期			大きなムラがあらわれる	
古代	弥生	前期	約2300年前	大陸から稲作文化が伝わる
		中期		東北地方で稲作が始まる
		後期		各地に小国ができる
中世	古墳	前期	300年頃	邪馬台国の卑弥呼が魏に使いを送る
		中期	400年頃	大陸から須恵器生産などの先進技術が伝わる
		後期	550年頃	仏教が伝わる
近世	飛鳥	終末期(古墳時代)	600年頃 645年	大化の改新
	奈良	前期	694年	藤原京へ都が移る
	平安	前期	710年 724年	平城京へ都が移る 多賀城が築かれる
近代	鎌倉	前期	794年 869年	平安京へ都が移る
		中期	1192年	源頼朝が征夷大将軍となる
		後期	1334年	建武の新政 南朝と北朝に分かれて対立する
現代	室町	前期	1338年	足利尊氏が征夷大将軍となる
		中期	1467年	南朝と北朝が一つになる 応仁の乱がおこる
		後期	1573年 1590年 1601年	織田信長が室町幕府を滅ぼす 豊臣秀吉が全国を統一する
江戸	前期	1603年	徳川家康が征夷大将軍となる	
	中期	1628年 1638年		
	後期	1868年	戊辰戦争が始まる	

たん けん はっ くつ ちょう さ げん ば  
**探検!! 発掘調査 現場へ**

**GO!**

**発掘調査って、どうやっているの?**



まず、重機(※1バックホー)で地面の土を掘ります。

※1 バックホー(バックホウ):バケットを下向きに付けたショベルカーのことです



慎重に、スコップなどを使って人力で掘ります。



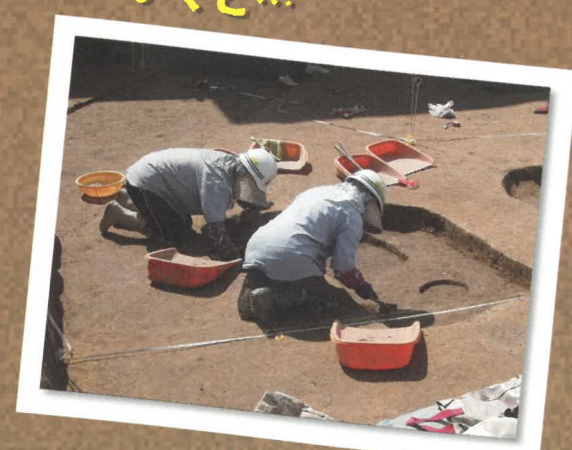
すると、黒く何やら形が見えてきます。これが、遺構(いこう)です。

周りより黒い部分が遺構

役目を終えた後、周囲と別の土で埋まり、違いがはっきりと見え、遺構であることが分かります。



黒い土を小さな道具で丁寧に取り除いていくと...



建物の柱の跡が確認できました! 遺物(土器など)が混ざりこんでいることがあります。

土に混じって発見された土師器(はじき)



最後に、写真を撮って、図面に記録を取ります。

このコーナーで使用している発掘現場の写真は、令和2年8・9月に実施した太白区の郡山遺跡の調査です。



調査は、外の現場だけでは終わりません。遺物や図面などを事務所に持ち帰り、調査結果を報告するために、整理作業を行います。



水洗い

出土した土器などの遺物は、土がついているので、ブラシなどを使ってきれいに水洗いします。



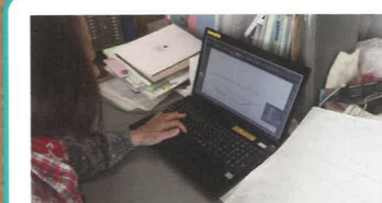
ネーミング

遺物の破片ごと、それぞれ遺跡番号や出土した遺構名などを数字や記号で小さく記録(ネーミング)します。



接合(せつごう)・復元

遺物の破片をいわば立体的なパズルのように組み立て、接着します。見つからないパーツは修復用の樹脂などで補います。



図面のトレース

記録した紙の図面などを、活用しやすいようにパソコンを用いてデジタル化していきます。



実測

ここまでの作業が終わった遺物は、定規やコンパスなど様々な道具を使って図面に記録します。



拓本(たくほん)

細かな文様(もんよう: 模様のこと)などを明らかにして記録するため、和紙を用いて写し取ります。



報告書原稿作成

報告書を作成して記録を残します。この積み重ねがいわばデータベースとなり、今後の調査の基盤ともなります。

とってもたくさんの作業があるんだね!

そうなんです。力仕事から細かい作業もあり大変だけど、重要な発見や立派な遺物が出た時はうれしいものです。

わたしも、発掘できないかなー?

毎年、発掘体験などのイベントも開催しているよ。小学5年生以上を対象にしているので、参加してみよう。